

第5回「戦争と医の倫理」の検証を進める会 世話人会報告

- ◇日時 2010年8月22日(日) 11時～16時
◇場所 東京保険医協会会議室
◇参加者 石川徹、塩安佳樹、西山勝夫各代表世話人、赤羽根巖、苜昭三、小俣和一郎、小島莊明、光石忠敬、吉中丈志各常任世話人、住江憲勇事務局長、市野川容孝、岡田朝志、刈田啓史郎、小松美彦、末永恵子、田中智彦、長島隆、松村高夫、村林彰各世話人
(事務局) 相場康文、遠藤隆、木村徳秀、杉浦秀明、鈴木ひとみ、原文夫、室井正、小林耕治各氏

◇議長 住江憲勇事務局長

◇報告・協議事項

1. 前回会議報告の確認について

第4回世話人会(10.6.6)会議報告は了承。

2. 保団連医療研究集会での市民公開シンポジウム準備について

シンポジウムの準備として、①吉中丈志、小俣和一郎、山口研一郎各シンポジストの抄録原稿 ②当日の運営日程(案)、③市民向け呼びかけチラシについて、それぞれ資料に基づき報告がありました。

市民参加の呼びかけチラシについては、当会世話人会構成員をはじめ、関係諸団体に案内を行い、マスコミにも広報することとした。

3. 当会独自企画案の具体化について

(1) A、B、C各班別の検討結果の報告と提案について

前半の会議で行われた各班別の討議をふまえた報告、提案が各責任者より報告された。その要点は、下記のとおり。

①A班(歴史検証) 責任者：吉中常任世話人

*前回報告のように、検証課題ごとに担当者を決めて進めている。その参考として、原爆とその影響調査、防衛省の図書館資料、戦争協力体制ではその動員政策などが出された。その中で、次の3点の調査にも努力することとした。

①各都道府県の医師会史などから、戦争への協力体制に関する資料

②地元大学の関与を裏付ける資料(特に東大医学部の資料)

③動員に抵抗した医師・医学者も掘り起こし、その教訓や医療界全体にも位置づける。

*医療倫理教育の調査では、質問項目もひろげて調査できるようにする。

*今後の日程は、9月半ばを目標に各項目の素案を出し合い、前回のパネルに追加すべき内容も検討し、全体像を示したい。なお、パネル全体の枠(枚数)については、C班(医療倫理)との関係も調整できるようにしたい。

※討論では、

- ・731部隊細菌戦被害国家賠償訴訟で、最高裁は原告の請求を棄却し裁判が終了したことをどう考えるかとの提起があった。これに対し、私たちは最高裁判決に左右されず、史実の検証を通じて判決内容を捉えなおすことが必要と指摘された。
- ・戦争協力体制の検証の関連では、特に当時の東京府医師会、東京大学教授会の情報収集にあたること。

- ・医学教育に関連して、高校の歴史教科書がどのようになっているかも、検証することとした。
- ・8/6NHK原爆特集で、GHQに原爆被害調査を渡したのも 731 部隊での犯罪追及されないため、とも言われている。
- ・ドイツ医師会は、医学犯罪の克服作業を行い、「人間の価値」を刊行している。

②B班（国際シンポ）責任者：小俣和一郎常任世話人

*ドイツからの招聘者として依頼したティル・バスティアン氏より、受諾する旨の返書が届いた。しかし、多忙だったのか当会の招聘状余白に書き込んでの簡単な返書であり、万一を考慮した対応も検討した。その結果、

①ティル・バスティアン氏が8月末にスイス・バーゼルで開催される I P P N W 国際会議に参加することがわかり、日本から参加する武田勝文世話人が同会場で直接面談し、再確認することとした。

②複数の候補も検討したが、その場合は運営も大変となることから、シンポとは別に今後の交流を進める趣旨で、クレー氏とのコンタクトを取ることにした。

*国際シンポジウムの当会の担当者として、下記の提案があり確認した。

- ・主催者挨拶は、西山代表世話人
- ・日本側パネリストは、刈田啓史郎世話人
- ・座長は、小島、小俣各常任世話人
- ・東京宣言の提案は、石川代表世話人
- ・閉会挨拶は、塩安代表世話人

*懇親会の準備について

会費は 6,000 円とし、事前の申込み・振込み制を基本に準備する。

(コース料理 4,000 円 + フリードリンク 1,500 円)

*招待者の宿泊は、東京ガーデンパレスを予定する(参加者用に一定数の部屋も確保)

*ドイツ語の同時通訳、機材レンタルの見積もりを複数取った。結果は以下の通り。

- ・株式会社サイマリングル 同時通訳半日 2 名 136,500 円 + 機材一式 362,500 円
(ただし、機材関係で 100,000 円値引き)
合計 399,000 円 (税込み基本料金)

- ・株式会社クロスインデックス 同時通訳半日 2 名 150,000 円 + 機材一式 380,000 円
合計 556,500 円 (税 + 基本料金)

(株式会社サイマル・インターナショナルHPの基本料金でも、ほぼ同様の料金体系)

各社とも設営と撤去の基本時間が超過した場合などは、別途料金が加算される。

以上をふまえ、当日の運営との関係で、同時通訳か、随時通訳かは、今後検討する。

③C班（医療倫理）責任者欠席のため、赤羽根常任世話人

*今回の班会議は、赤羽根、光石両常任世話人と事務局の相場氏の 3 人。責任者が欠席で提案メモが箇条書きだったこともあり、組織的な検討が十分できなかった。このため、赤羽根常任世話人より、責任者の山口研一郎常任世話人よりの「現代医療を考える会の資料」も紹介し、後日あらためてC班の担当で検討することとした。

※この報告に関連して、前回事話人会で山口研一郎常任世話人からの提案文書「医療倫理・生命倫理の基本的な考え方」の中で、「医療・医学の本質に『善の側面』と『悪の側面』が常に存在することを確認」と提起していることについて、その意味の質問から討論が行われた。主な意見は、以下の通り。

- ・731 部隊では「医学犯罪」としてむごいことが行われたが、その反面で、医学の進

歩に寄与したとの見方もあり、医学・医療のあり方として、善の面、悪の面の捉え方を整理する必要がある。

- ・現在の医療でも「将来の患者のために」の名のもとで、いわゆる「人体実験」的な行為が行われていることは否定できない。結果がよければ、後世から評価されることになる。また、米国が免罪と引き換えに731部隊の実験資料を入手し、その実験結果を利用して朝鮮戦争に使用したともいわれている。
- ・目的と手段を区別しないと手段が正当化される。医学・医療には、実験的な要素も含むぎりぎりのところでの対応が求められるときがある。その場合、倫理的な面での判断基準が問題となる。大学の倫理委員会や社会的な承認基準などのステップを踏んで行われたのかどうか重要であり、この点で731部隊の行為は論外である。
- ・C班で取り上げる視点では、731部隊など中国で行われた人権無視の医学犯罪が、現代でも医療ツーリズムなど企業の論理で医療の国際展開が行われていることなどへの批判が必要ではないか。
- ・展示パネルの枚数では、前回は約120枚でC班関連は10枚くらいと思う。全体の枠との関係で、「医療倫理」問題をどうするかは、あらためて検討してはどうか。
- ・731部隊が行った医学犯罪から、医学・医療の発展があるとは思わないほうがよい。なぜなら、731部隊の医学犯罪は、人間性の否定であり、マルタ、サルなどと称して、医学の名の下に行われた犯罪である。医療はサイエンスであり、医療を受ける人が尊重されるものでなければならない。
- ・「医療倫理」に関する課題は、和田心臓移植問題から最近の臓器移植法改定、ips細胞など、現在の医学・医療に直接かかわるだけに、しっかり議論する必要がある。今後の世話人会で、一定時間をとって議論を予定してほしい。

(2) 明治大学平和教育登戸研究所資料館館長への検討のお願い

同資料館長で明治大学文学部の山田朗教授に、電話で趣旨もお伝えし、7月14日付「資料展示等に関するご支援、ご協力をお願い」を送付した旨、報告が行われた。

(3) 日本医学会総会展示会場への申請の是非について

8月末日が申し込み期限となっているので、当会として一小間の展示コーナーを申し込むこととした。

(4) 戦前からの医師生存者への聞き取り（証言収集）の検討について

これまで大阪府保険医協会と東京保険医協会に、聞き取り調査などを行った本と協会誌の特集が紹介された。その経験からも、該当者がかなり高齢で聞き取った内容の裏づけ調査も含めて、事実上難しいとなったが、東京保険医協会として何らかの方法がないか検討することとした。

4. 第28回日本医学会総会等への要請について

(1) 日本医師会・原中勝征新会長へ懇談要請

当会の住江事務局長が保団連会長として原中会長と懇談した(10.7.29)とき、当会の懇談要請の文書も手渡しして、検討をお願いした。その後、「立場上、懇談は控えたい」との返答があった。

(2) 日本医学会総会矢崎会頭との懇談

全日本民医連の遠藤事務局次長が面識もあることから、当会世話人でもある藤末民医連会長が訪問（10月1日）される際、お願いすることとした。

5. 防衛省への731部隊等に関する資料公開要請について

(1) 総理、防衛大臣あて要望書（案）、政務官への要請について

要望書（案）の内容を確認するとともに、長島防衛政務官と面識のある塩安代表世話人をお願いすることとした。

(2) 防衛研究所図書館からの入手資料の内部用冊子の作成について

松村世話人より、内部検討用として当初は冊子の作成を予定していたが、CDにコピーして利用することとした旨、報告があり了承。

6. 世話人会名簿の整理、各団体・個人の賛同、募金状況などについて

(1) 世話人会の体制等について

明治大学平和教育登戸研究所資料館・明治大学との連携を強めるためにも、山田朗教授と渡辺賢二氏（明治大学非常勤講師で、同資料館の運営者）に、世話人就任の要請を行うこととした。

(2) 賛同、募金の到達状況報告について

事務局より、前回事話人会以降の到達状況が報告された（世話人会資料参照）。

7. その他

(1) 次回会議予定 第6回事話人会は10月24日（日）11時～16時 東京保険医協会で開催。

(2) 参考資料として下記が紹介された（世話人会資料参照）。

- ①日本医学教育学会大会でのメンタリングプログラム（吉中常任世話人）
- ②朝日21関西スクエア（2010.7）への山口常任世話人の記事
- ③日本内科学会専門部会の医療倫理観の問題点（大阪中央病院・平岡諦氏）

以上